

河野を代表する北前船主

右近家概要

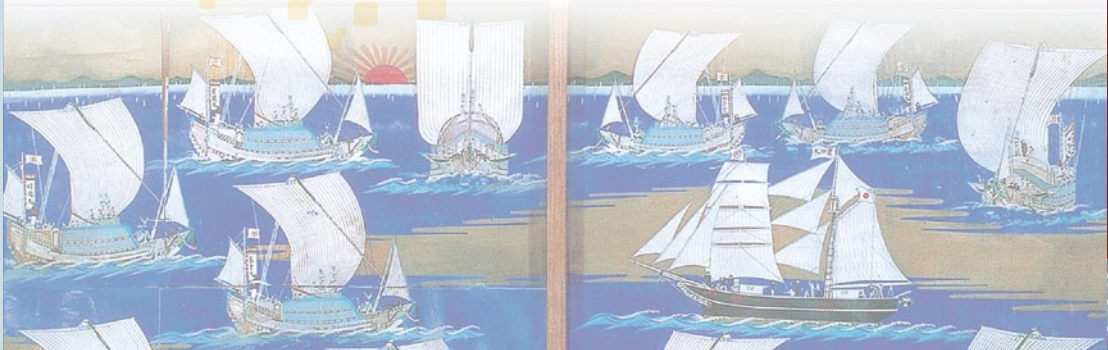
右近家の初代は江戸時代前期である延宝8(1680)年に、菩提寺である金相寺より土地、屋敷、船などの資産を譲られて独立し、右近権左衛門家を起こしました。

天明から寛政期の右近家の経営記録「万年店おろし帳」によれば、右近家の廻船は近江商人の積み荷を運ぶ“荷所船”として活動するかたわら、自ら商品を仕入れ販売する、いわゆる買積み商いをする北前船へ展開する時期に入っていきます。船主が自らの船で自らの商品を売買する北前船の商いは常に危険との隣合わせであり、商品の価格変動による損益や、海難により船や積荷を損失することもありましたが、こうした荒波にもまれながらも右近家はたくましく時代を生き抜いて、飛躍の機をうかがってきました。そしてその機は9代目権左衛門の時代に訪れました。

彼は17才から右近家の廻船である弁天小新造や八幡丸に自ら船頭として乗り込み、北前船の運航と寄港地での情報収集など廻船経営のノウハウを体得します。この経験が、商機を見逃さず、幕末から明治中期にかけての北前船の最盛期を生き抜き、右近家を日本海沿岸有数の北前船主に仕立て上げる原動力となりました。幕末には北前船を11艘所有、利益は12,000両にも達しています。その積極的経営により右近家は日本海五大船主の一つに数えられました。

10代目権左衛門も父同様に積極的に北前船経営を行い、明治12年(1879)には、右近家の北前船17艘の積石数の合計は18,000石を超えており、それは文字どおり“千石船”の大船団でありました。しかし時代は電信などの情報の近代化が進むなど、買積み商いによる廻船経営は先の見通しがいいことを悟った10代目権左衛門は、明治20年代に小樽には右近倉庫を建設、その後大阪に右近商事株式会社を設立し、大阪と小樽を拠点とし、所有する廻船を西洋型帆船、更には蒸気船に切り替え、大量の商品を運びその運賃を稼ぐ経営に転換しました。日露戦争直後の右近家は蒸気船7隻を所有し、その総トン数は2万トン余に達しており、名実ともに近代船主に脱皮しています。

一方で10代目権左衛門は、日本郵船会社の北海道進出に対し、加賀、越中(現在の石川県、富山県)などの北前船主とともに北陸親議会を結成し太平洋側の中央資本の進出を阻止しました。また、北前船主が共同で運営する海上保険会社の必要性を痛感し、日本海上保険株式会社(現在の損保ジャパン日本興亜の前身)を設立するなど、北前船主のリーダーとして活躍しました。



河野の地理・歴史

商品価格の地域差を利用

南越前町河野は越前海岸の南端、敦賀湾のほぼ入口に位置し、古くから府中(現在の越前市)と敦賀を結ぶ海陸の中継地として栄え、河野・敦賀間の船稼ぎに従事していました。17世紀後半、敦賀湊には近江商人が荷所船(チャーター船)を共同で雇い、北海道の産物を廻漕していました。河野・敦賀間を廻漕していた河野の船はこのような地理的条件から、敦賀湊で近江商人の荷所船の船主や船頭として活躍するようになります。

江戸時代の半ば過ぎ、商品流通の発展にともない日本海海運は飛躍的に発展を迎えました。荷所船として運賃積を行っていた廻船も買積み商いの比率を徐々に高めるようになっていったのです。鯨肥料の需要の拡大と商品価格の地域差を利用して、北前船の買積み商いは活況を呈しました。船主達はこのチャンスを生かして大海原に進出していきます。また、明治維新後の北海道開拓用の物資運搬にも大活躍し、近代日本形成の大きな力となりました。こうした活躍により、幕末から明治時代にかけて日本海沿岸有数の北前船主を輩出しました。



交通アクセス



鉄道でお越しの際は

JR北陸本線武生駅または福井鉄道越前武生駅より
福井鉄道バス王子保・河野線で約40分
またはタクシー利用で約30分

お車でお越しの際は

石川・福井方面から
北陸自動車道南条スマートICより国道305号経由で約20分
北陸自動車道武生ICより国道8号線を南下後桜橋交差点より国道305号線経由で約30分

関西・中京方面から

北陸自動車道南条スマートICより国道305号経由で約20分
北陸自動車道敦賀ICより国道8号線を北上、越前河野しおかぜラインをさらに北上後国道305号線で約40分

お問合せ

南越前町観光まちづくり課 〒919-0292 福井県南条郡南越前町東大道29-1
TEL 0778-47-8002
南越前町河野観光協会 〒915-1111 福井県南条郡南越前町河野2-16
TEL 0778-48-2240
南越前町観光情報サイト <http://www.minamiechizen.com/>



2018年8月作成

information

河野北前船主通り 散策ガイド

南越前町



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～



JAPAN HERITAGE
日本遺産

河野北前船主通り概要

かつて廻船を生業としていた南越前町河野は、北前船主を代表する右近家や中村家といった船主邸や、船頭・水主の家並など、往時の繁栄を色濃く残す独特の景観や建築様式が残っています。現在は海岸線が埋め立てられ、拡張・整備された国道305号線が主要な交通路として機能していますが、かつての道はそこから一本裏の路地を通っていました。この邸宅や蔵が両側に立ち並ぶ趣あふれる古のメインストリート「河野北前船主通り」と位置づけ、歴史とロマンを感じつつ散策を楽しめるエリアとして景観整備を行いました。

また、日本海五大船主の一つである北前船主の右近家邸宅を資料館として活用したのが「北前船主の館 右近家」です。当館は、右近家12代目当主右近保太郎が本宅等の管理を旧河野村に委ねられたのを機に、建物の公開と同家の廻船経営に関わる資料の展示を目的に、平成2年5月に開館しました。建物は、明治期に建てられた本宅や蔵、昭和初期に建てられた西洋館などから構成されます。

さらに特記すべき出来事として、平成27年7月に中村家住宅が国の重要文化財に指定されました。建築当初の姿をよくとどめ近世までの伝統を継承しつつも、近代的形式や造形が段階的に導入された和風建築として、また増改築の過程での考証の一助となる多くの古文書も発見されるなど歴史的価値が認められ指定に至りました。

このように風土や生業により河野浦の土地独特の景観が残り、歴史とロマンが感じられるこの地への、知的な探索の第一歩をご案内します。

右近家建物

右近家の敷地内には、集落道をはさんで、山側に本宅と3棟の内蔵、海側に4棟の外蔵が建っています。

本宅は、明治34年(1901)に、それ以前の建物を拡充して建てられました。平入りの2階建て、切妻造りの屋根には瓦が葺かれています。瓦は越前瓦で、棟先に「右近」の文字の入った丸瓦が置かれています。内部は、樺や檜材の太い柱や、米国産の松材を用いたと伝えられる平物、蠟色漆塗りの床框に象徴されるように、たいへん豪華な造りになっています。

土蔵は、いずれも2階建てで、樺材が多く用いられています。外蔵の南側3棟と北側1棟の間には、塗籠の長屋門があり、海に向かって開かれています。

本宅の北側には、山の斜面を背景にして造られた和式庭園があり、そこには、茶室が建てられています。

本宅背後の高台には、国の登録有形文化財に登録されている「旧右近家住宅西洋館」と呼ばれる別荘があります。昭和10年(1935)に建てられたもので、鉄筋コンクリート2階建てです。設計・施工は大林組が行いました。外観は洋風で、屋根には茶色のスペイン瓦が葺かれ1階部分の外観はスパニッシュ様式に、2階部分は校倉造り風の檜丸太積みになっているほかベランダも設けられるなどシャレー風にまとめられています。内部は和洋折衷になっており、1階には、イングルスックと呼ばれる暖炉を備えたホールと寝室を中心に、厨房、洗面脱衣室、浴室、水洗便所などがあり、2階には4畳の前室を持った10畳の和室があります。

北前船主の館 右近家

住所 〒915-1111
福井県南条郡南越前町河野2-15
電話 0778-48-2196

開館時間 9:00~16:00

休館日 毎週水曜日・年末年始(12月29日~翌1月3日)

観覧料 大人(一般・大学生・高校生) 500円 団体の場合 450円
小人(小中学生) 300円 団体の場合 270円
※団体は20名以上

Information
ご案内



河野北前船主通り散策ガイド



1 歴史文化ふれあい会館

海と共に歩んできた地元の歴史・産業・文化などあらゆる分野の資料が展示・保存されています。2階の図書館には北前船・海関係資料室が設けられ、日本海、瀬戸内海沿岸の市町村史や右近家廻船文書や西街道関係文書が収集されています。

2 北前船主の館 右近家

日本海五大船主に数えられる名家。現在、北前船資料館として公開しています。



5 真宗大谷派 金相寺

江戸時代の初めから廻船業と関わりの深い金相寺は、河野浦の北前船主である右近家や中村家を初めとして、多くの船頭や水主(乗組員)の菩提寺となっています。堂宇や内陣荘厳の什器などは、北前船の船乗りであった御門徒が寄進したものです。

6 北前船主・中村家(中村三之丞家) ※非公開

北陸有数の北前船主の邸宅。山側に居宅となる主屋と新座敷と土蔵2棟、主屋式台正面を挟み、海側を表構えとするよう海に向かって開く薬門を配置し、妻入りに土蔵4棟を連ね、海風から主屋を守るように構成されています。新座敷は三階に望楼があり外観上の大きな特徴となっています。国の重要文化財に指定。

3 旧右近家住宅西洋館

ここからの日本海と集落の眺望は絶景で、条件が良ければ丹後半島の経ヶ岬まで遠望が可能です。背後の山腹には斜面を生かして立体庭園が設けられ、山上まで続いています。

4 観光案内所どっときたまえ

大正はじめには11代当主夫妻の新居として建築。現在は河野観光協会が入り、案内施設兼休憩所となっています。庭もみどころ。

7 中村家の分家(中村吉右衛門家) ※非公開

元禄期に中村三之丞家より分家。河野浦の庄屋職を主に務めた家柄で、右近家や中村家の船頭も長く務めました。切妻造り瓦葺き2階建て、平入り。笏谷石の石積みの基壇上に大戸口を構える主屋と、集落道の海側に土蔵3棟があります。

8 北前船主・刀禰家(刀禰新左衛門家) ※非公開

明治37年新築の北前船主邸。切妻造り瓦葺き2階建て、平入り。笏谷石の石積みの基壇上に大戸口を構える主屋と、集落を挟み海側には長屋門と土蔵2棟が配置されています。

河野北前船主通りは、断層海岸地形で断層崖が海に落ち込む崖下の狭小な平地にあり、家屋が海岸に沿って帯のように連なっています。間近にある海から吹きよせる海風を遮る為、海側に土蔵を建て、山側に主屋を配置する屋敷構えは河野の船主邸の特徴的屋敷構えで、河野北前船主通りの景観を作り出す大きな要素の一つとなっています。個々の船主邸に視点をあててみると、海への畏敬の念を表すべく海側に開かれた「門」の存在や、玄關戸口・台所の炉(囲炉裏)・座敷の配置、前庭に根を張るモチの大木など共通の造作が多くみられます。また、瀬戸内海の御影石や各地の名木といった遠方の産物を建築資材として用い、堅牢かつ豪華なつくりや、嗜好を凝らした繊細な意匠なども北前船主邸ならではの様式です。その中でも散策しながら目に留め易い意匠として、屋根瓦の瓦当文様があります。他にも舟板や船のキャビン窓を流用するといった船乗りの知恵も垣間見られ、個々の建築物が河野北前船主通りの景観をより一層興味深く魅力的なものにしています。※居住されている家もありますので、敷地内への立ち入りはご遠慮ください。